

水沢ふるさと探訪オリエンテーリング

少年自然の家がある水沢地区には色々な史跡があります。訪ねて地元の歴史を感じましょう。野鳥のさえずりや草木が風に揺れる音など自然に触れることもできます。

史跡

もみじ谷

春には新芽の緑が美しく、秋には赤や黄色に織りなす色鮮やかな紅葉の木々は、訪れる人の目も心も和ませてくれます。この景色を愛でた歌碑が建立されているように、多くの詩歌に詠われ、今ではカメラの被写体として人々が楽しんでいます。江戸時代、菰野藩主土方公は、元禄年間から紅葉狩りをはじめ、九代藩主土方義苗が、文化6年(1809年)に「もみじ谷」と命名し、樹木保護に尽力した。その後、地元の人々の努力により、現在の景勝地となっています。

寺里神明社跡

応永28年(1421年)光明寺の守護神として山之坊に寺里五座(八王子社、加茂社、本社神明宮、天白社、土御前社)が鎮座しました。明治43年(1910年)には足見田神社に合祀され、山之坊の旧跡は、いつの間にか崩れ、往時を偲ぶものは数少なくなっていますが、一對の席灯籠と石段があります。

光明寺跡

杉林の中、見るからに建物の跡地とわかる場所に梵字と仏の姿らしい絵が刻まれた自然石の小さな碑があります。ここが南北朝時代の元中元年(1384年)に僧円霊が將軍義満に要請し、建立された光明寺あとです。現在、東西25間(45m)、南北1間(250m)の平坦地は茶園になっていますが、織田信長に焼き払われるまで約2世紀の間、七堂伽藍をはじめとして如堂所28院を擁して栄華を誇ってきました。跡地からは仏具、五輪塔、瓦類などが出土しています。出土した鈴(リン)は、常願寺で使用されています。

冠山茶の木原

冠山茶の木原は水沢茶の発祥地であり、その歴史は古く、平安時代の延喜年間(901~923年)に地元の飯盛山浄林寺の僧玄庵が、空海(弘法大師)に製茶の教えを受け、唐伝来の茶の木を植えて栽培したのが始まりであると伝えられています。

冠山茶の木原は、雲母峰(きららみね)の南側山裾の急斜面には、古い樹齢の原木が他の樹木に混じって存在しています。今でこそ山の中になっていますが、昔は近くに寺があり、その寺の園として栽培されていたそうです。昭和56年に市教育委員会により市史跡として指定をうけました。毎年、足見田神社にここで摘み取られた新茶が奉納されています。